

## 第35回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

- 日 時：平成 30 年 1 月 25 日（木曜日） 15：00～17：00
- 場 所：仙台市役所本庁舎 2 階 第 4 委員会室
- 出席委員：宮原 育子 会長、小祝 慶紀 会長代理、阿部 由起子 委員、日下 晋 委員、  
工藤 秀也 委員、後藤 淳 委員、猿田 誠 委員、菅井 一男 委員、  
杉山 ふじ子 委員、西大立目 祥子 委員、長谷川 裕寿 委員、深松 努 委員
- 欠席委員：高橋 勝利 委員、多田 千佳 委員、廣田 芽衣子 委員
- 事務局：仙台市建設局百年の杜推進部河川課
- 議 題：＜議 事＞
  - 1) H30 年度広瀬川創生プラン 掲載事業の更新について
  - 2) 広瀬川創生プランに係る活動団体の支援方法について＜報 告＞  
第 6 期の振り返り ～広瀬川市民会議の運営体制強化～

### ■ 要 旨：

- 平成 30 年度広瀬川創生プラン掲載事業については、平成 29 年度掲載の 75 事業のうち、「完了」4 件と「未着手」2 件が削除され、その他の 69 事業は引き続き掲載されることとなった。
- 新規で掲載依頼のあった 2 件の事業は、いずれも掲載が認められた。これにより、平成 30 年度の広瀬川創生プラン掲載事業は 71 事業となった。
- 広瀬川創生プランに係る活動団体の支援方法について、まずは、プラン掲載事業の一覧表を仙台市ホームページへ掲載することとし、その先の登録もしくは認定制度の設立については、次回以降の協議会で引き続き検討していくこととなった。



## ■ 議事詳細：

### 1. 開会

#### ○司会（菅野課長）

ただ今より「第35回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。

高橋委員、多田委員、廣田委員については、所用により欠席との連絡をいただいている。

### 2. ご挨拶

#### ○司会（菅野課長）

それでは、次第にもとづき、宮原会長よりご挨拶をいただきたい。

#### ○宮原会長

前回は昨年10月に実施したが、今回は年も明けて最初の協議会である。昨年から、広瀬川に係る様々な行事や市民会議の運営体制等について、みなさんからご意見をいただいているが、本日も引き続き活発な議論をお願いしたい。

#### ○司会（菅野課長）

続いて、仙台市の出席者については、資料の「席次表」をご覧頂きたい。仙台市側を代表して、建設局長の村上よりご挨拶を申し上げる。

#### ○村上建設局長

本日は大変寒い中、また足元の悪い中、お集まりいただき感謝申し上げます。先ほど宮原会長よりお話いただいた通り、今年度2回目の開催となる。本日は、次年度のプラン掲載事業の内容や創生プランに関わる団体の支援方法等、これまでご議論いただいた内容も含めて、改めてみなさまからのご意見をうかがいながら、事務局としても検討・整備していきたいと考えている。また、今回の協議会をもって、大変長い間、委員をお引き受けいただいていた宮原会長と工藤委員が、ご退任となる。会議の冒頭ではあるが、別の会議があり中座させていただくため、改めて厚く感謝申し上げます。本日もよろしく願います。

### 3. 議事

#### ○司会（菅野課長）

本日は全15名の委員のうち、12名の方に出席いただいております、過半数を達しているため、本会は成立している。また、建設局長、建設局次長は、別の会議に出席するため、ここで退席させて頂く。以降の議事の進行については宮原会長に願います。

#### ○宮原会長

まず、今回の議事録署名は五十音順で長谷川委員にお願いしたいがいかがか。

＝一同了承＝

#### ○宮原会長

それでは、「H30年度広瀬川創生プラン 掲載事業の更新」について事務局から説明をお願いしたい。委員においては、必要に応じて参考資料のマップ3を参照されたい。

#### ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料1～2に沿って、説明。

## ○宮原会長

本プランでは、市民団体や企業、行政等の各主体が実施する様々な事業を掲載しているが、その活動について棚卸しをさせていただいたというところである。事務局から説明があったように、いくつかの事業で中断や未着手となってしまったものがあつた一方で、新たに2件の新規掲載依頼があつた。何か意見あるか。

## ○日下委員

都市デザインワークスが主体のNo.59と60の事業を統合するという提案だが、統合後の文章からはセントラルパーク自体の定義が消えてしまうのではないか。同じ文章にはセントラルパークの重点エリアという考え方もでてくるため、それらの関係性が分かりにくくなってしまふのではないか。

## ○事務局（菅野課長）

こちらについては、後日、相手方である都市デザインワークスに確認させていただく。

※後日確認→統合後の文章の最初の一文に、セントラルパークの定義を明記いただくように依頼。（セントラルパーク構想の定義）杜の都仙台のシンボルである青葉山や広瀬川が地下鉄東西線と交差する広瀬川流域一帯において、資源発掘や“5つの楽しみ方 | 佇むピクニック・巡るまち歩き・集うマーケット・知るミュージアム・食のカフェレストラン”を提案し、市民の参加・共感の輪を広げる構想。（重点エリア）大橋を中心とした広瀬川河川空間及び、広瀬川に面する青葉山公園・(仮称)公園センター、西公園、住宅や店舗、またその庭先等の一体的なまち空間。

## ○宮原会長

新規掲載を希望しているアーバンアウトドア実行委員会とは、どのような組織なのか。

## ○事務局（杉井室長）

地元の建設会社である高野建設株式会社のアウトドア事業部が主体となっている組織であり、これまでも広瀬川の流域でいくつかのアウトドア体験イベントを実施した実績がある。昨年のミズベリング・水辺で乾杯！でも会場担当として実施している。

## ○宮原会長

仙台河川国道事務所の事業も、いくつかプランに掲載されているが、何かコメントはあるか。

## ○猿田委員

河川整備計画にもとづき、各事業を実施している。すべての事業を同時に実施することはできないが、順次実施している段階であり、引き続き「継続」という形で掲載している。

## ○宮原会長

ここまで様々な意見をいただいたが、プラン掲載事業の更新について、掲載済み事業については進捗状況をふまえて更新し、新規掲載希望の事業については、2件とも追加するということでよいか。

＝一同了承＝

## ○宮原会長

それでは、その他特に意見がなければ、次の議事「第6期の振り返り ～広瀬川市民会議の運営体制強化～広瀬川創生プランに係る活動団体の支援方法について」にうつりたい。まずは、事務局から当該項目について説明をお願いしたい。

## ○事務局（杉井 広瀬川創生室長）

資料3に沿って説明。下記の通り、支援方法を3つ提案。

- ①プラン掲載事業の実施主体及び参加団体/企業一覧表の仙台市ホームページへの掲載
- ②書類審査による登録制度の設立
- ③書類審査および協議会の審査による認定制度の設立

## ○宮原会長

今の事務局からの説明について、質問等はあるか。

## ○深松委員

ホームページへのプラン掲載事業の掲載は、手間をかけずにできると思うのでぜひ実施して頂きたい。また、登録制度や認定制度について検討していくのであれば、初めて参加する団体と、長年にわたり参加いただいている団体で、ランクがわかれるような形が望ましい。自社にも、資料3で例示されている消防団協力事業所の認定証を掲示しており、CSR活動のPRとしての効果を実感しており、そういった形にできるのであれば、企業にとっては大変ありがたい。

## ○長谷川委員

ホームページへの掲載はぜひとも実施して頂きたい。登録制度については、一律ではなく、活動内容や継続期間等、団体の実績に基づいた形でのランク分けは必要と考える。

## ○後藤委員

美化活動等に参加した支店企業等が、賞状等をもらえたり、ホームページに掲載されると、本社への報告がしやすくなるため、参加しやすくなるという意見があるが、まずはプランに掲載されておらず、自発的に広瀬川の環境保全や魅力発信に資する活動をしている団体を対象とするかどうかの整理が必要である。例えば、そういった自発的に活動している団体は、今回検討している制度がなくとも継続して活動していただけると割り切って、プランに掲載している事業のみを対象とし、1万人プロジェクトであれば参加回数が増えるごとに、ランクがあがっていくような制度もよいのではないかと考える。

## ○宮原会長

いろいろな主体の人が活動しているので、それをどのように把握していくのか、またどのタイミングで認定や表彰を行うのか、という課題についてご提案いただいた。

## ○事務局（菅野課長）

事務局としては、あくまでも広瀬川創生プランに関する活動を対象としたいと考えている。対象とする団体は企業だけでなく、NPOなども対象とできるように、「団体」の定義を検討して行く必要があると考える。清掃活動であれば、1万人プロジェクトが主な対象となると思われるが、現時点で150社程度が加入している中で、いわゆる「貢献度」を参加人数や回数等でどのように定量化していくのかについても、合わせて検討が必要であると思われる。まずは、ホームページへの掲載をさせていただいた上で、「書類審査による登録制度」、もしくは「書類審査および協議会の審査による認定制度」の設立のいずれかを目指していきたいと考えている。その中で、表彰制度も導入することも合わせて検討していきたいと考えている。

## ○宮原会長

事務局より今後の方向性について補足いただいたが、まずはホームページへの一覧表掲載については、実施するという方向で良いか。

＝一同了承＝

○宮原会長

続いて、②書類審査による登録制度の設立、もしくは③書類審査および協議会の審査による認定制度の設立、のどちらの方向性で検討していくかについてだが、こちらについて意見はあるか。

○工藤委員

広瀬川には「広瀬川の清流を守る条例」があるが、条例には、表彰制度のようなものはあるか。

○事務局（菅野課長）

「広瀬川の清流を守る条例」は対象とする土地の利用に規制をかける条例なので、表彰制度のようなものはない。

○工藤委員

「広瀬川の清流を守る条例」が広瀬川の環境保全に貢献した度合いはかなりのものであるから、条例の方に表彰制度が無いのであれば、プランの方で何かしらの形で表現できたらいいと思う。

○宮原会長

表彰制度も含めて、登録もしくは認定基準等については、今後しっかりと検討していく必要がある。次回の協議会は3月を予定しているということだが、その時に今回よりもう少し具体的な、基準や手順等の案を事務局から提案していただきたい。

○事務局（菅野課長）

要検討事項について整理し、もう少し具体的な議論ができるような準備をさせていただく。その際は、どちらの方向性であっても対応できるような方針での準備を心がけるので、委員のみなさまからは、ご意見を頂戴したい。

○宮原会長

事務局から「③書類審査および協議会の審査による認定制度の設立」にも対応できるようにご準備いただくと提案頂いたが、よいか。

＝一同了承＝

4. 報告

○宮原会長

それでは、続いて「第6期に振り返り」ということで、事務局から報告をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室 大平）

資料4に沿って説明。

○宮原会長

第6期の2年間の中でも、特にプランの推進体制について、議論の経緯について報告いただいた。広瀬川市民会議の組織体制強化については、途上段階で、次の第7期に引き継ぐということになるが、何か意見のある委員はいるか。

○杉山委員

今年度はいろいろな新しい企画を通して、市民会議を盛り上げていくという方針で行ってきたが、振り返ってみると、自分たちが楽しんでできていた。ここ数年、自分たちがまずは楽しんで活動をしたい

ということで取り組んできたが、今年はそれができている。それらの活動は、いずれも昨年から今年にかけて新しく女性が2名、市民会議の会員となったが、彼女たちの力によるところが大きい。また、これまでの市民会議は男性会員が多く、どちらかというとな男性主導で活動が行われてきたが、女性の視点も増えたことで、新しい風が吹き始めていると感じる。

#### ○小祝会長代理

改めて振り返ってみると、いろいろなことを検討してきたということがよくわかった。工藤委員からもあったが、広瀬川市民会議と広瀬川1万人プロジェクトがどのような関わり方をしていくのかということが広瀬川創生プランを推進していくために非常に重要なことだと感じた。工藤委員はじめとする、みなさまのご尽力を、次期にもしっかりと引き継いでいく必要があると考える。

#### ○宮原会長

最後に総括をいただいた。本日は、委員のみなさまより、大変多くのご意見・ご提案をいただき感謝申し上げます。その他、特に意見がなければ、報告は以上としたい。

その他、何か意見や伝達事項のある委員はいるか。

#### ○工藤委員、杉山委員

第4回広瀬川学校(H30.1.27)の開催について連絡。

#### ○宮原会長

当該イベントでは、深松委員の講演もあるようだが、何かコメントはあるか。

#### ○深松委員

普段から自社で業務として行っている広瀬川の河川維持管理業務について、大雨の際の対応もあり、ほとんどの市民が知らないところで毎日のように様々な作業にあたっている。美しい広瀬川の景観を維持するために、どのようなことをやっているのか、ぜひとも多くの市民に知っていただきたいと考えている。

#### ○宮原会長

その他、特になければ、内容については事務局で議事録にまとめていただき確認することとして、本日の議事を終了したい。

＝一同了承＝

### 5. 閉会

#### ○司会（菅野課長）

活発なご議論をいただき、感謝申し上げます。以上をもって本日の議事は終了となるが、宮原会長、および工藤委員には5期10年にわたり、委員を歴任いただいた。お二人から一言ずつお言葉をいただきたい。

#### ○宮原会長

改めて、10年間お世話になり感謝申し上げます。先の江成会長、伊藤会長代理の体制から引き継いで、この2年間は会長という立場で広瀬川創生プランに関わらせていただいた。一委員とは違う立場で関わることで改めて、工藤委員をはじめとする広瀬川市民会議のみなさんが様々なところで活動なさっていて、それがこのプランの大きな比重を占めているということを実感した。重点事業でもある

広瀬川1万人プロジェクトや作並かっぱ祭りが毎年着実に開催されているのも、本当に日頃の活動の賜物であると痛感した。広瀬川の水は昔から変わることなく、地形を変えつつ、人の暮らしを潤しながら、これからも流れていくのであるが、水が循環するのと同じように、人々や社会も循環していく中で、変わらずに広瀬川を愛する人たちがいてくれることが大切だと考える。そういう意味では行政や企業の役割も大きく、同時に、本協議会の担う役割も非常に大きいものである。今回、本協議会を離れることになるが、改めて個人として広瀬川に関わる行事に参加していきたいし、大学で地理学について指導していることもあるので、何かプログラムを提供して、みなさまと関わることを続けていきたいと考えている。今後ともよろしく願いするとともに、長きにわたりお世話になり感謝申し上げます。

#### ○工藤委員

10年間という長い期間ではあったが、振り返ってみるとあっという間であった。自分の考えややってみたいこと、広瀬川に対する想いや夢、様々なことについて、自由に楽しく発言させて頂いた。委員のみなさま、事務局各位においては、誠に感謝申し上げます。

#### ○小祝会長代理

お二人とも長きにわたり、ご尽力くださり感謝申し上げます。宮原会長からいただいた「循環する広瀬川の水のように、広瀬川を愛する人々も循環していく」という言葉や、工藤委員からいただいた「協議会は夢を語る場であった」とお言葉は、今後、広瀬川を文字「創生」していく上で非常に大切な考え方だと感じた。お二人の言葉をしっかりと胸に刻んでいきたい。

お二人とも余人を持って変えがたく、もう10年、20年と引き続きご指導いただきたいところではあるが、市の規定ということであるので、ぜひとも協議会を離れたあとも、個人として引き続きご協力を頂ければ大変心強い。改めて感謝申し上げます。

#### ○司会（菅野課長）

宮原会長、工藤委員、そして小祝会長代理には感謝申し上げます。以上を持って、第35回広瀬川創生プラン策定推進協議会の一切を終了する。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

平成 年 月 日

#### 議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会長 ⑩

委員 ⑩